
勇者タケルの物語

伊吹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者タケルの物語

【コード】

N5995Z

【作者名】

伊吹

【あらすじ】

婚約者は勇者さま？のスピノフ作品。勇者タケルって、もしかして？日記風に進む、1話1000字未満のかるーいはなし。

13 目 目

いやいや、あつちにいたときは日記なんて書いたこともないのに、こんな状況に追い込まれて書こうと思いつとは。

吉川健、16歳。

日本のそれなりの都市部に住むどこにでもいるようなサラリーマンと専業主婦の間に産まれた、平凡を地で行く次男の俺が、これまた普通の市立高校に通い、可もなく不可もないような成績の俺が、どうやら異世界トリップ真っ只中。

異世界トリップ？ファンタジー？おいおいオタクかよ、と突っ込んでいた過去の俺、馬鹿にしていた友人諸君。土下座して謝るから、助けてください。

前後左右眺めても木しか見えない、森の中で目が覚めて、当てもなくさまよってたどり着いたログハウスみたいな小屋を訪ねてみればボケたばーちゃん、じーちゃんしかいないって。

異世界トリップ？テンプレ？なにそれおいしいのな状況に泣くしかない。

幸いにして、ボケた老夫婦は俺をハオルドと呼ぶ。息子だと勘違いしてるらしい。頼れる人もいないから俺はハオルドとしてじじばばの息子に成りすました。（薪割りとか弓で狩りとか初めてしたし、腰がはいつとらーんって鉈持って追っかけまわされた。あのじじボケたふりしてんじゃねえだろーな）

馬鹿にしていた友人諸君。

異世界トリップにはテンプレ必須？おいおい、それならこの状況を

どう説明する！

俺を召喚したらしい魔法陣もなく、というか人がいねえ！勇者と崇める王家の人間も、俺に惚れるはずの王女もない。魔王を倒してくれとも国に平和をとも。（あ、でも言葉が通じるのはテンプレ、か？）

俺にしているのはボケた老人2人、ってどーゆーことだよ。

テンプレ必須って誰が言った。異世界トリップしてみたいって言うてただろ、誰でもいいからあの馬鹿どもと俺を変えてください。お願いします……いや、まじで。

13日目（後書き）

拍手より転載

吉川健が勇者タケルとなるまでのお話

今日初めてじじばば以外の人間を見た。熊とか虎とか魔物とか（！）見たことあったけど人間は初めてだ。

誰だお前、と剣を向けられた。マンガみたいに前髪がはらりと切られた。チビるかと思っただぜ。このやろっ。

一応、じじばばから呼ばれるハロルドと名乗ってみたが、どうやらハロルドは目の前にいるダンディなおじさんの幼なじみで、すでに死んでいるらしい。失敗した。じじばばの金を狙う悪党だと決めてかかって、剣をもつおじさんと必死の鬼ごっこを体感5時間ほどしてしまった。

まじこえー、都会もやしっこの俺を舐めるな。5分も走れば息が切れるわッ！（つまり体感が5時間であって、実際は5分もねえわ）で、どうしたって？

ボケじじが杖を振り上げておしまい。あ、簡単すぎた？つまりはわしのハロルドに何するー！と杖を振り上げたはいが、振り上げた反動で腰をやったみたいで、息も絶え絶え。慌てたおじさんは俺に向けた剣を放り投げて、ジ・エンド。

これでよく、薪割りとかできてたな。

そんなこんなで仕方ない、とおじさんは俺がハロルドを名乗ることを許してくれた。

……というか、許す前にどこのだれかは聞いてくれよ。答えてもわからないだろうけど。

俺に剣を向けたハロルドの幼なじみというおじさんはバースさんと
言うらしい。

バースさんは奥さんと息子さんを戦でなくしたらしく、生きていれ
ば俺ほどの年頃だとか。

つまり何が言いたいかというと。

身の上を話してみればめっちゃ泣いて（男泣き、とはまさにこ
のこと）背中ばしばし叩かれて。父親だと思え、とか。熱い男つて
むっちゃうざつてえ、とか思ってたません。これぼっちも。ハイ。
んで、ボケたじじいばばじゃ話にならないが、バースさんがすべてを解
決してくれた。

リスティア？聞いたことねえーし。日本？どこだそれはとか言われ
るし。

とりあえず、わかっていたが、改めて他人から言われるとかなりへ
こんでしまったようだ。もう寝る。

3日坊主だったはずの俺がここまで書き続けることができたのは、きつと日本語をわすれたくないから。

じじばばはあつけなく死んだ。川で水浴びしつつ、水瓶に水をついで家に戻れば魔物がじじばばを食っていた。無残な欠片しか残ってなかった。

思わず壁に立てかけてあった鉈を振り回した。一心不乱に振り回していたら運よく当たって、絶命していた。

血に濡れた家で呆然とじじばばの欠片を見ていた。バースさんが来てくれなかったら俺は血の匂いにつられてやってくる魔物に食われていた。本当にここは日本じゃない。人は呆気なく死ぬ。

バースさんに連れられて、森を出た。とりあえず、当面はバースさんの家で居候の予定。

この日記を書く手が震えている。じじばばが死んだ、しかし俺はじじばばの名前さえ知らないことをさっき思い至った。ハロルド、と呼ばれていたが、ボケたじじばばのノー天気さに救われていた。

……気分がわるい。はきそう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5995z/>

勇者タケルの物語

2011年12月23日00時57分発行